

時が経つのは早いもので、気がつけば自分も40 目前です。昨今は若い世代の入社も少ないためか、気持ちは20 代？ちょっと無理もあるので30 代前半です(体力は確実に40 代ですが…)

現在、私は、地質調査の仕事に従事しております。その業務範囲はとても広く、地質、力学、化学、環境、気象、時には文学？とにかく様々な知識と応用力を求められる仕事で、日々勉強の毎日です(どうして学生の時に一所懸命勉強しなかったんだ！後悔先に立たず)。

入社時、会社の研修で「10 年後の私」というテーマの作文を書きました。作文には「技術士を取得し、周りから信頼される技術者を目指す」なんてことを書いたことを記憶しています。入社したてのペーパーが、ずいぶん調子にのったこと書いてしまったと後悔しました。当時、ろくに勉強もしてこなかった私にとって、優秀な先輩方が苦勞して取得している技術士を自分がとれるなんてこれっぽっちも思っていなかったのです。それから9 年後、なんとか合格しました(すれすれのラインだと思います)。多少背伸びしてでも、目標は掲げてみるものです。それ以来、「物事を難しいことと決めつけない。できると思い込めば、きっとできる！」と自分に言い聞かせることにしています。もちろん、「できる」を実現するため、一層の精進と常にチャレンジする気持ちを忘れずにがんばろうと思います。また、若い世代から地質調査は魅力的な仕事だと感じてもらえる仕事をしたいと思っています(今の目標の一つです)。

前号で、技術士が主人公のドラマ放送を望む声がありましたが、私も賛同です(ちなみに私の希望する女性凄腕技術士役は戸田恵梨香さんです)。

畔原 孝典 (あぜはら たかのり)

●応用理学部門(地質)

勤務先

株式会社 ドーコン
環境事業本部 地質部



⇒次号は、星野敦司さん(建設・応用理学部門)

私は昭和35 年10 月に釧路市で生まれ、『地震が多い、霧が多い、涼しい』この釧路で生涯を過ごそうと思っております。この環境で『なぜ』と思われる方々もいらっしゃると思いますが、客観的かつ冷静に考えてみると、『地震』については、平成5 年の釧路沖地震でライフラインが多大な被害を受けましたが、施設の重要度を考慮した耐震化対策は現在でも着実に進められております。とは言

え、その当時、地元コンサルは、くる日もくる日も災害調査で追われ、設計を担当した大手コンサルさんも大忙しでした。近年は東日本大震災を契機に、地殻変動等の調査・研究が加速し、今後起こりうる大地震についての情報が、多く伝えられるようになりました。しかし、一方で東北の被災地復興には、まだまだ時間とお金と労力が必要であり、今後の動向をしっかりと見守っていかなければなりません。話が飛躍してしまいましたが、地震が多い分だけ、その対策も他の地方より進んでいるものと考えます。

また『霧が多い』、『涼しい』についてですが、特に春から夏の間は気温が上昇しかけると、海から天然クーラー(霧)がAUTO で作動します。この影響で25℃以上の夏日は年に数回程度、真夏日に至っては数年間隔といった具合です。しかし、夏が涼しい釧路は本州の方々にとって、特に高齢者の方々には魅力的な気象環境と言えます。ここ数年で夏季の長期滞在者が増え続けており、今後の高齢化社会、節電対策等にも貢献できるものと考えます。ここまで釧路の魅力について書かせて頂きましたが『安全・安心における備え』は、今後もその重要度は高まる一方であり、技術士の称号を受けた以上、地域そして社会から必要とされる技術者であり続けることが、私に課せられた使命と考えます。

清水 慎吾 (しみず しんご)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社 郡土木コンサルタント
e-mail : shimizu@koric.co.jp



⇒次号は、稲村親司さん(上下水道・総監部門)